

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 保健学研究科

組織目標		達成状況(成果)		
教 育	1. 高度専門職業人の育成 ・がん専門看護師(看護学分野)、医学物理士(放射線技術科学分野)、細胞検査士育成(検査技術科学分野)の継続的育成 ・実質化に向けた博士課程コア科目の授業内容改定 2. 社会人大学院生、及びリカレント教育の拡大 ・助産師、保健師、看護師のためのスキルアッププログラムの実施 3. ITを活用した大学院教育の展開 ・学外からもアクセスできる双方向性授業の開始	1. 高度専門職業人の育成 ・がん専門看護師(看護学分野)、医学物理士(放射線技術科学分野)、細胞検査士育成(検査技術科学分野)の教育プログラムを計画どおり実施し、1名が医学物理士の資格を取得した。 ・博士課程コア科目「インタープロフェッショナルワーク論」を少人数討論形式の授業とし、討論に学外からもアクセスできるe-learningシステムを活用した。 2. 社会人大学院生、及びリカレント教育の拡大 ・助産師を対象にした「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを全国から選抜した22名を対象に実施し、学長から修了証書を授与された。 ・文部科学省の「看護職キャリアシステム構築プラン」として「EBM志向の次世代看護職教育システム」が採択されシミュレータを用いたスキルラボの開設、教育プログラム開発を行い平成22年3月26日に開催した外部委員を含めた評価委員会でも高い評価を受けた。 3. ITを活用した大学院教育の展開 ・学外からもアクセスできるe-learningシステムを構築し、これを使って上記の助産師教育を行った。	④ 3 2 1	
	研 究	1. 低線量放射線に関する「原子力環境安全安心工学」プロジェクトへの参画 2. 臨床研究能力をもつコメディカルの育成 ・周産期を中心とした母子保健に関する研究(看護学分野) ・保健師・助産師教育プログラムの改善に関する研究(看護学分野) ・低線量放射線の健康への利用に関する研究の推進(放射線技術科学分野) ・免疫細胞・分子の機能に関する研究(検査技術科学分野) ・心臓病の発症、進展のメカニズムの解明と新しい検査法の開発(検査技術科学分野) ・骨格筋収縮機能の評価と臨床検査および介護システムへの応用(検査技術科学分野) 3. 教育研究開発WGを中心にした分野枠を超えた研究の推進	1. 低線量放射線に関する「原子力環境安全安心工学」プロジェクトのひとつとして「放射線安全・医療応用学コース(博士前期課程)」を保健学科の卒業生2名が修了した。 2. 臨床研究能力をもつコメディカルの育成 ・中塚幹也教授を中心に行った性同一性障害、妊婦に対するDVに関する調査結果が山陽新聞に掲載された。 ・「放射線安全・医療応用学コース(博士前期課程)」を2名が修了した。 ・佐藤妃映助教(検査技術科学分野)の成人T細胞白血病/リンパ腫に関する研究が日本リンパ網内系学会総会奨励賞を受賞し、特許「造血管腫瘍の検査方法及びキット」(4088694号)を取得した。 3. 教育研究開発WGを中心にした分野枠を超えた研究の推進 ・同WGは8回の会合を開き、関連病院の院長、看護師長等を対象にした調査を行った結果、関連保健医療福祉機関職員の臨床研究支援体制をつくることになった。	4 ③ 2 1
社会 貢 献		1)がん予防・がん看護・がん治療、妊娠、不妊・不育、性同一性障害等看護師、保健師、助産師、放射線治療技師、医学物理士、臨床検査技師、細胞検査士を対象にした生涯学習支援。一部にe-learning教材を導入・活用。 2)がん看護・治療、妊娠、不妊・不育、性同一性障害、性感染症、子育て等高校生、教員や一般市民を対象にした公開講座、講演、啓発キャンペーン。 3)各関連学会、研究会、法人組織の理事、評議員、幹事、委員、及び世話人として会の開催や運営を支援。 4)診療活動、他のコメディカル教育機関での講義。	1.助産師を対象にした「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを全国から選抜した22名を対象に実施し、学長から修了証書を授与された。実施にあたっては学外からもアクセスできるe-learningシステムを活用した。 2.深井喜代子教授(看護学分野)が天皇・皇后両陛下のお招きを受け、平成21年12月17日聖路加看護大学・菱沼典子教授、東京大学・真田弘美教授とともに、皇居で看護学研究について懇談した。また、同教授は文部科学省の「看護職キャリアシステム構築プラン」申請に当って「EBM志向の次世代看護職教育システム」を提案し、中心となって計画を作成して、採択の原動力となった。 3.第5回チームオンコロジーセミナーで司会、岡山県でんかん協会講演会での講演、医学物理インテンシブ研修コースの講師等全教員が幅広い社会貢献を行った。 4.診療活動も従来どおり行うとともに新見公立短期大学等で教員が講義を行った。	達成度： ④ 3 2 1
客 観 的 指 標	事 項	前 年	今年の目標	達成状況
	学部入試倍率			
	大学院充足率	前期1.3倍 後期1.3倍	いずれも1.1倍以内を目指す	前期1.1倍 後期1.2倍
	科研費申請率	79%	100%	70.97%(重複申請抜き66.13%)
	科研費採択率	25%	増加に努める。	15.91%
	共同研究件数	4	100%	4
	受託研究件数	1	100%	2
	留年・休学・退学者数	前期:留年1・休学4・退学0 後期:留年9・休学6・退学6	(今年の状況) 減少させるよう努力する	前期:留年1・休学8・退学2 後期:留年13・休学16・退学1
就職率	96.20%	100%を目指す	100%	
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。 社会人教育はいずれも教員のマンパワー以上の成果をあげているが、継続的に行うには教員の補充が必要である。「EBM志向の次世代看護職教育システム」についてはさらに岡山大学院との人事交流等により生きた教育ができる体制の整備が望まれる。放射線技術科学分野、検査技術科学分野の大学院生は本学保健学科の卒業生が半数以上をしめており、着実に研究成果があがっているが、看護学分野は社会人がほとんどであり、保健学科の卒業生を受け入れて研究能力を育てる必要がある。</p>				

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)